

同窓会報

発行: 2010年5月16日

横浜市立南高等学校同窓会

事務局: 電話 045-843-8058

FAX 045-848-1121

「54期の皆様の入会を歓迎します。」

同窓会長 小後摩 基(5期)



54期生の皆様のご卒業おめでとうございます。また同窓会入会を心より歓迎いたします。

今年卒業の54期生の皆様は過去の卒業生の皆様と比較しても、中高一貫校問題で大変な心痛を味わったことでしょう。南高が無くなりはないか、不安と動揺が交錯し、荒れた時期があったともお聞きしました。同窓会はPTA、後援会(三団体)の皆様と一致団結し市教育委員会に真正面から向き合い、請願・陳情を繰り返

返しました。また同窓会は南高の歴史・伝統等を改めて勉強・検証し、市教委へ訴えて参りました。結果は私たちの十分な満足を得たわけではありませんが、廃校にならず南高の名を残すことは出来ました。今後も同窓会は他の二団体と協調して、南高の中高一貫校について、市教委との話し合いの中で検証していくつもりです。また皆様の後輩に対しても色々な面で、出来る限りの支援をしてみたいです。皆様のご活躍を祈念するとともに、同窓会へのご協力をお願い申し上げます。

返しました。また同窓会は南高の歴史・伝統等を改めて勉強・検証し、市教委へ訴えて参りました。結果は私たちの十分な満足を得たわけではありませんが、廃校にならず南高の名を残すことは出来ました。

今後も同窓会は他の二団体と協調して、南高の中高一貫校について、市教委との話し合いの中で検証していくつもりです。また皆様の後輩に対しても色々な面で、出来る限りの支援をしてみたいです。

皆様のご活躍を祈念するとともに、同窓会へのご協力をお願い申し上げます。

南高教育と現代の青年像 校長 近藤 昭一



南高校着任2年目を迎え、改めて同窓会の学校支援の手厚さに心から感謝申し上げます。

ある大企業の経営責任者の方が語るところによれば、高い学歴を積み入社してくる新入社員の中途退社が、大幅に増加してきたそうです。そうした社員の傾向を分析すると、チャレンジしない、努力抜きに見返りを求める、自分の能力の露呈を避ける、アドバイスを説教と感じる、挫折の経験が少ない、人間関係が築けない、高いプライド、自己表現が苦手、人の助けを借りることは敗北と感じる、希薄なコミュニケーション、ストレス耐性が弱いなどが浮かび上がるそうです。

この話を聞いて、私は南高校の「学習」「生徒会」「部活動」の3本柱に基づく自主・自立の教育の確かさを再認識した次第です。

経済産業省は、若者の社会行動を分析研

究して、社会人が備えておくべき能力を「社会人基礎力」として12項目の指標にまとめ公表しています。指標には「他人に働きかける力」「課題を明らかにする力」「新しい価値を生み出す力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「ストレスコントロール力」などが上げられています。

(詳細<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/h19reference.htm>)

私は、南高生の快活さや同窓生の方々の活躍、相互の絆の強さに出会うとき、南高教育がこれらの指標を見越して構築されたように思われ、日本社会が求める青年像とその育成方針として、今後とも輝きを増すものと考えます。南高教育を創り上げてこられた先人の知恵に改めて敬意を表し、あいさつとします。

同窓会50年のあゆみ (同窓会五十周年記念誌より)

同窓会50年のあゆみ

◇昭和32年

第1期生卒業と同時に305人で発足。同窓会報第1号発行、以後毎年発行。この年、部活OB会も一部発足。初代同窓会長は阪柳定男。同窓会は親睦団体として発足したが、母校からの最初の宿題は体育館建設基金の寄付とりまとめ。

◇昭和34年

同窓会長松村祥男就任。卒業生が働く職場を訪問。年1ヶ所実施。47年まで14年間継続。野沢屋を最初に市内の主な企業14社。当時1企業に卒業生10人から20人毎年若干名が入社。就職が厳しい時代を反映して、第1回の在校生を対象とする就職激励会開催。当初在校生80人にOB6人が説明、主に面接対応など入社のためのガイダンス、多い年で在校生190人参加。昭和50年迄継続、その間に、学校側からの要請で、就職したOBを各企業から1名呼んで、母校就職担当教諭と懇談、給与体系や福利厚生内容、通勤問題、就職の心得など話し合い。その後就職希望者の激減で中止。

◇昭和36年

5周年記念会員名簿発行。企業訪問だけでなく昭和36年～40年にかけて大学も訪問。早稲田、中央大学などで学ぶ卒業生と懇談。

◇昭和37年

卒業生の懇親の場としては、ダンスパーティーを県立医師会館で実施。その後横浜スカイホールなどで48年まで実施。

◇昭和39年



木島平で第一回スキー教室開催、約100人参加。女性の参加が目立った。その後49年に木島平観光協会からスキー場開設10周年行事で感謝状を受ける。

◇昭和41年

10周年記念会員名簿発行。

◇昭和46年

15周年記念会員名簿発行。宛名カードによる会員住



所録管理の採用。15周年記念ダンスパーティー(於:横浜スカイホール)開催。

◇昭和55年

会員数10,000人突破、会員相互の連絡が難しくなる。

◇昭和57年

25周年記念会員名簿発行。

◇昭和58年

母校30周年記念式典に参加。



◇平成3年

会員名簿保守業務委託基準の制定。

◇平成4年

同窓会関係取材活動に対する謝礼金等の取扱内規制定。葬儀に関する香典等の取扱内規の制定。

◇平成5年

会員15,000人突破で会員名簿を作成。同時に同窓会自ら行事を行うことを改め、同窓会員の自らの活動(同期会・クラス会・部活OB会等サークル活動)を側面から支援することとした。

◇平成7年

第34回定期総会にて、会則の一部変更(理事会決議権の拡大、名誉会長職位の設置、事務長職位の設置、終身会費の見直し、平成10年卒10,000円)。

◇平成8年

アトランタオリンピック出場苅部俊二君(32期)の支援。(写真下)

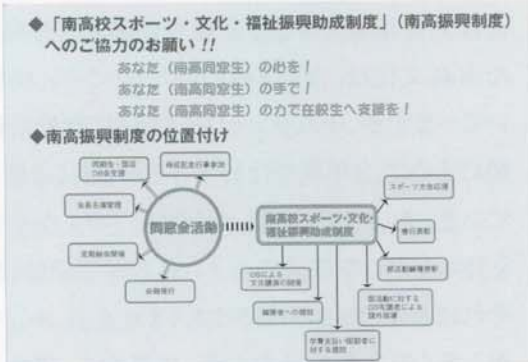


◇平成9年

「南高校スポーツ・文化・福祉振興助成制度」を立ち上げ、母校や在校生の

福祉的支援活動に重点を置く。支援にかかる費用

は、当初の目論見を大幅に越えて、年間100万円～200万円を支出している。主に、家庭の事情で学費が納められないなどの困窮者が増加したのが原因。世相を反映している。



◇平成12年

シドニーオリンピック出場 荻部俊二君(32期)の支援。

◇平成15年



学校創立50周年記念式典および祝賀会に参加。

◆平成18年

- 5月本年の卒業生による同期会開催(毎年実施)
- 9月同窓会主催「母校通学路クリーンアップ」実施
- 10月同窓会50周年記念パーティー実施。
- 50周年記念会報発行。

○毎年同窓会総会を開催。毎年5月その年に卒業した者を対象に母校で同期会を開催、今後も継続予定。

現在の取り組みや課題

○同窓会の財政問題であるが、本年から個人情報保護法の問題で、卒業生の氏名・連絡先が把握出来

なくなったため、過去49年間は、同窓会加入率100%であったものが、突然50%を切ることとなった。このため同窓会の財政が極端に圧迫され、支援制度継続に不安を感じている。財政問題もさることながら、自ら



同窓会に入手続きをした者以外は全く縁が切れることになる。同期会はもとより、クラス会の開催すら出来ないのが現状である。同窓会の存在意義すら薄れることを危惧している。

○母校はスポーツ面で、陸上競技・弓道等でめざましい活躍が見られるが、柔道部・卓球部が無いなど寂しい思いがある。世の中で団塊の世代がフリー化するが、卒業生の中にも多くの実績を残したスポーツ選手や特技を持った者がいる。教科外活動で支援出来るのではない。

そのほか現職で、大学教授、医師、弁護士、企業経営者等も多くおり、在校生支援に役立ってもらうことも可能ではないか。学校側も積極的に活用してほしい。



2009年度

南高校 同窓会表彰者

団体

- (弓道部)
- 1.男子団体 第9回東日本高等学校弓道大会出場
3人制ベスト16, 5人制出場
 - 2.女子団体 第53回全国高等学校総合体育大会
弓道競技大会出場

個人

- 1.遠藤 彩加(弓道部)
第64回国民体育大会関東ブロック大会
近的8位、遠的3位、総合6位
- 2.高橋 明日香(陸上部)
日本ジュニア陸上競技選手権大会出場
- 3.坂巻 遥(水泳部)全国水泳競技大会出場(100m平泳ぎ)
- 4.久保寺史織(水泳部)国民体育大会5位(シンクロデュエット)

着任の挨拶

校長代理 菱刈 範之



同窓会員の皆様、4月より校長代理として着任した菱刈範之です。私は19期の南高生として、どっぷりと南高文化に漬かっていた一人です。

「歌と踊りの南高」と言われ、行事に追われながら部活動に打ち込み、勉強そっちのけで日々生活していたことが昨日のこのように思い出されます。また、昭和60年から13年間南高に勤務していた旧職員でもあります。この度縁があり、再び母校に戻って勤務することとなりました。改めてよろしくお願ひいたします。

現在南高は、24年度設置予定の附属中学校開校に向けて急ピッチで準備を進めております。多感な思春期をじっくりと南高で過ごせる生

徒は大変幸せです。諸先輩方が創造し熟成した南高文化は、今も学校のいたるところに根付いていますが、それをシャワーのように充分浴び続けるのに、3年間では短すぎる面もあると感じていました。「まだ卒業したくない。」そんな思いを持ちながら卒業式を迎えられる高等学校は、それほど多くあるわけではありません。しかしながら多くの卒業生はそう言って巣立ち、事あるごとに南高に戻ってくるのです。そんな南高文化をこれからも大切に守り続けることが私の使命であると感じております。

附属中学校の立ち上げにはまだまだ越えなければならない課題が多くありますが、南高の更なる発展を担うべく、微力ではありますが精一杯努力をいたしますので、諸先輩方のご指導ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

平成22年度教職員異動

離任者教職員

職種・教科	氏名	移動先
副校長	金山 康男	戸塚高校定時制(校長代理)
養護	春木 紀美	横浜商業高校別科(臨人)
保健体育	佐藤 賢司	港中学校
英語	大熊 準矢	横浜総合高校
国語	白取 真弓	金沢高校
国語	吉田 哲二	横浜総合高校
理科	金子 哲也	桜丘高校
英語	蛭田 佳子	横浜商業高校
事務職員	北村 彰男	青葉区役所
技能職員	山崎 知子	金沢高校

着任者教職員

職種・教科	氏名	前勤務先
校長代理	菱刈 範之	横浜総合高校(副校長)
副校長	三崎 徹雄	横浜商業高校(副校長)
国語	内田 理恵	戸塚高校
国語	齋藤 成二	みなと総合高校
理科	真柄 俊孝	鶴見工業高校
保健体育	高橋 奨	南戸塚中学校
保健体育	近内 真一	桜丘高校
英語	御園生 百恵	横浜商業高校
英語	山口 明代	横浜商業高校
養護	近藤 真寿美	戸塚高校
事務職員	絹谷 実	市民局
技能吏員	星川 理恵	戸塚中学校

南高同窓会 Web Pageのご案内
<http://nanko-ob.com>